



昔語實屋
庫卷之一

初篇

馬野

~ 13
3394
1



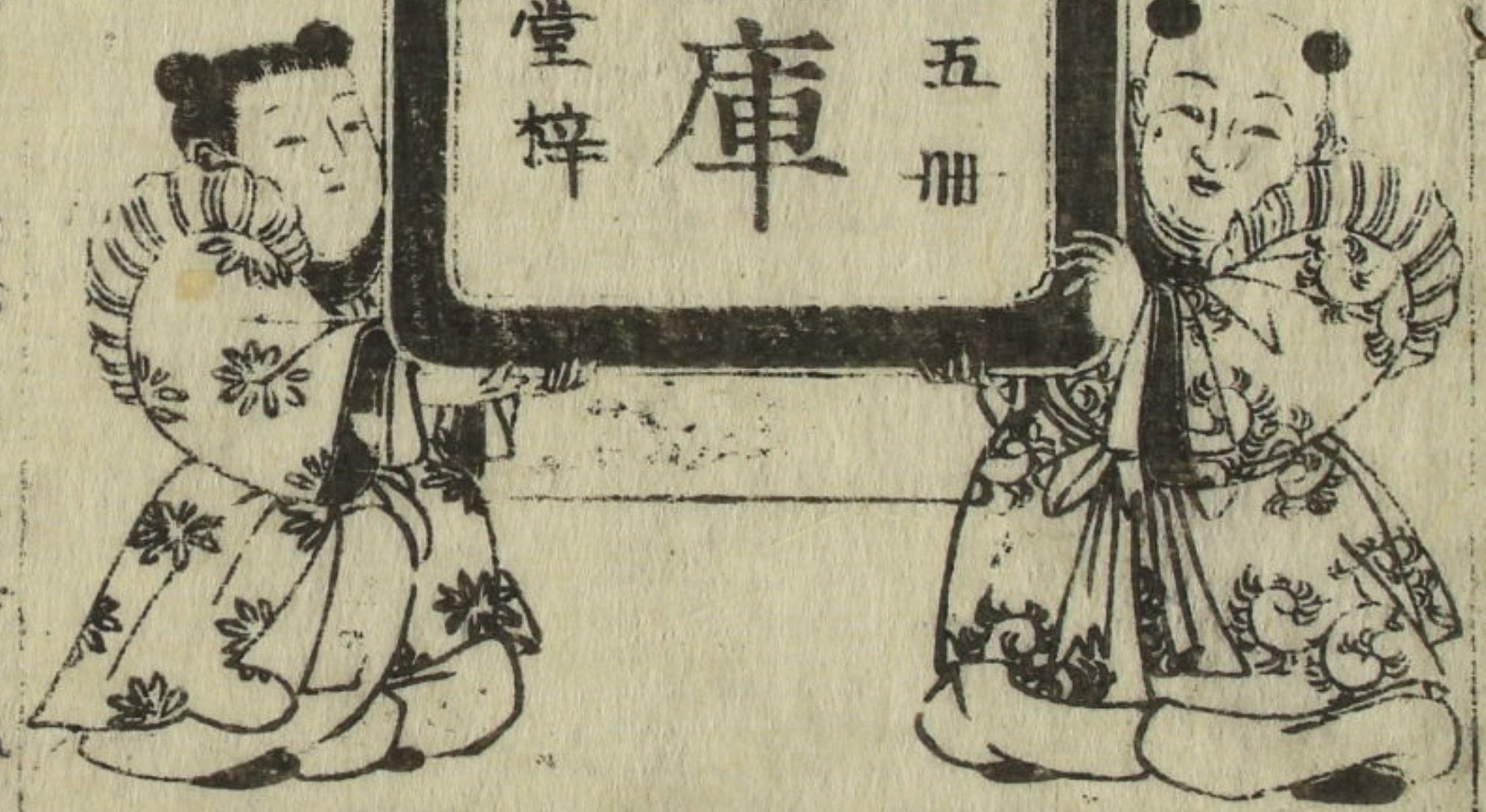
門入 18
3394
1

この編ハ故事俗説の錯悞ヲ辨じて其義讀史の階梯ニ爲ルベク

飯台曲亭翁著演

昔語質屋庫
初編五冊
文金堂梓

春亭勝川主人畫



文辞櫻襦といふまでも本据ありて種本度儀辨て海東布く所以の

自叙

雕窩

吉野
春亭
勝川

余ハ武の冊子ヲ綴るハ其の

昭和九年
三月十日
春亭翁

事俗説の異同を辨るるに於ては其の推察を
得ん或る。其の如くは其の如くは其の如くは
比其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは

寶篋庫卷一

歌書
李も軍
書平
高し吉
野山
録支考
夕

静書業

山の女
あつた
わりの
たつた
あつた
あつた
あつた



南朝の公卿
得失の
栄枯
落魄の



典物の壁
燕太子丹
秦
義仲の
息美隆
故郷を
あつた

昔語質屋庫初編總目錄

發端 室咲の質莖 第八 眉間尺髑髏盃

第一 讀書先生歌案 第九 橋逸勢薄命一行物

第二 友切丸 第十 紀名虎錦繡拈鼻禪

第三 曾我十郎衛小紋衣袖 第十一 袈裟御前苦即鞋

第四 諸葛孔明陣大鼓 第十二 九尾批裘

第五 依藤大龍官入の弓袋 第十三 崇徳院天狗爪取剪

第六 石堂九高野請脚絆 第十四 鎌倉時代の上下

第七 平將門袞龍製束 第十五 木重上人の乞食袋

通計一十六條 完

昔語質屋庫卷之一

東都



曲亭馬琴演

發端 室咲の質草

行く相値莖々相望。枝々相準。葉々相向。華々相順。實々相當。此無量壽経よ所言。天宮の宝樹々々塵世の所小あつてと。洪容齋が隨筆と引くや霞も雲井もよみか南都の皇居も遠からぬ六田の御の質屋と。マ理も和胡も典物と。禰の世渡りも野五番堅い身上羨る。好事屋宝樹と。ふりのありけり。後醍醐帝の延元より。後龜山院の天授まで南帝三世。俺ハ二代より好夏小枕に。道具質やうて活業と。と。ぬき足るぬ世帯ハ夏冬の入。のそりて。毫も取らぬ質草の小紫ら。枯らさず。か。小南朝

元来難法の時の要ふ鼻と割該は満びて大臣納言辨多談槐
 門の公族の先祖傳承の什物と好ま屋か庫住ひうて八月限りの大
 鶴波將又流まんとするさたよ。利足の碓は怒ぎて苗まば夏の虫乾ゆ人子小
 任し冬の火災も苦ふりぬの松どつが物やそつが物あるぬ。金が敵の世々
 さまざうん世祇禰と十文字裸裎の中あつとひともの罪よあつとどと
 してその子よりして備残と譲る質札恨しとど凡夫の愛惜心かの
 質庫は持りたるべ。けかも兩夜長月の簷の玉木音寂て遠き寺この
 撞枕よかよと。店の真間高軒主管が齧齒ハ浴室の漬の栓挽とて
 おのづから開くかどく。丁稚が寐語ハ燈市の点鼓囉小曰あり又炊妻
 が森がりの米俵と投るかどく。女工が外と枕ハ懸る綿桶よも似る
 べ。凡少壯の寐而不寤所以ハ血氣盛ハ肌肉滑ハ氣道通と管衛の

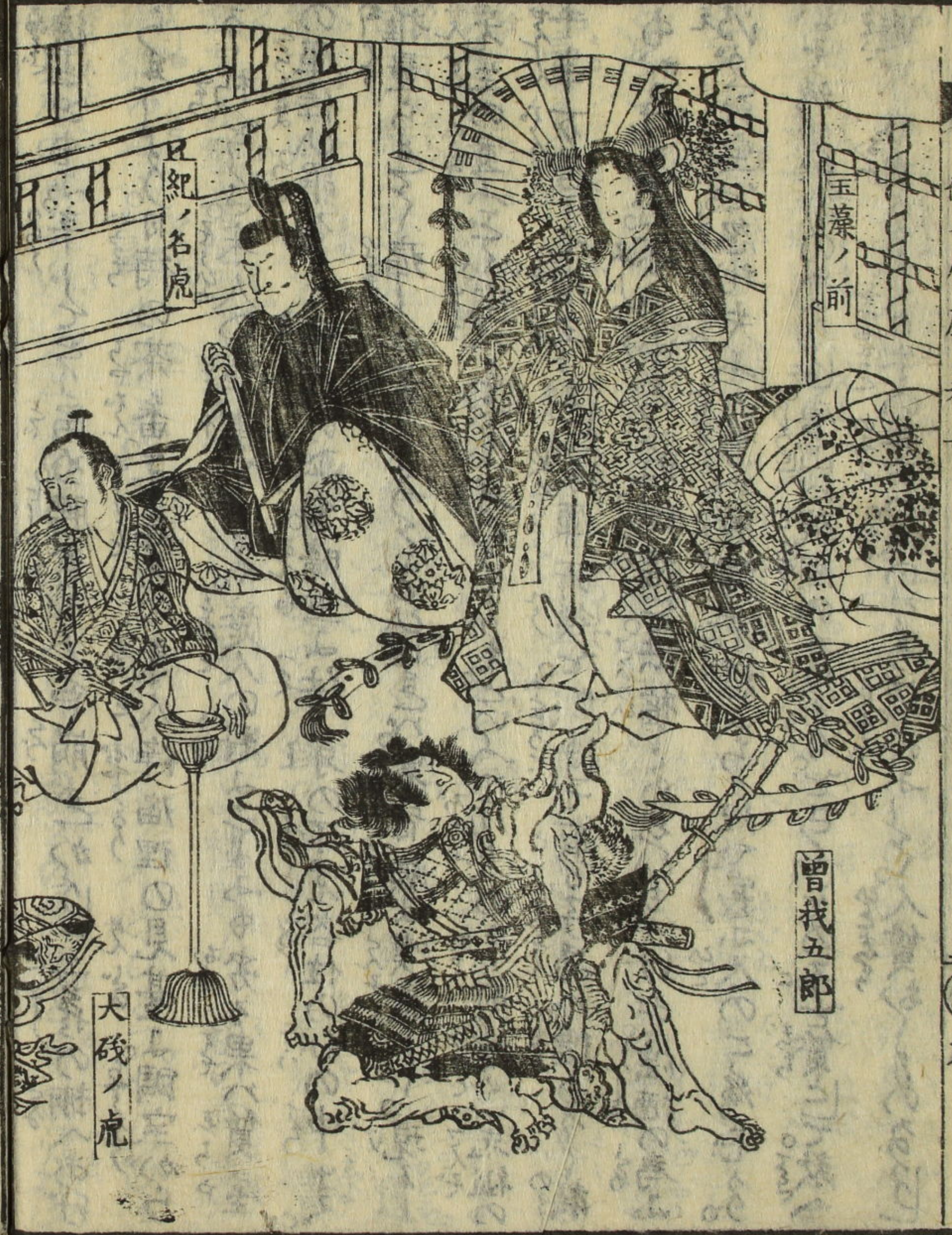
経釋
 精精敬
 不倦也
 又云。滴
 質也。調不利

行その常と失つと。故よ昼ハ精よて。夜ハ覺せども寤ど又老人ハ血氣
 衰へその肌肉澤ハど管衛の道滑るなふ。昼と精多らびと。夜も
 寐らむとと。難経の四十六難ハ鏡とて。宝樹ハ今茲五十六歳夜寤
 れぬハ本末の老人質氣といひながら。ありつと病ハの不寐病人と
 たのまぬ金の衛して。うらうと睡とまど。鬻つくやうある門の物一馬場
 責。天井の漏ハ枕敷てつが宿るがら密と起つと。掘る炭網の手燭と
 袖のてら掩ひ納戸客房庖厨すも三遍廻とハ怪ハる。質庫のかま商て
 のの声とそまをよけま。盗賊と胸うち發と。卧る主管小野と
 鳴びてんや。とどひハ。積ハ舊のよる。小賊の入るべと。さうのほさ
 為体を見定めんと流石ハ老功氣と結めて。怪るがら驚く足と。翻
 息と籠庫の戸口へまうて。網戸の目よりと。現けハ二階より。洩る燭臺の

朧燭早と早く向昏のうへ人駭固^{あやしみ}と。うら相譚^{あやしみ}る物のいひごま。
 盜賊^{ぬすびと}の他^{ほか}に^{また}宝樹^{たからじゆ}ははく^{はく}と^とうら^{うら}めて^{めて}亦^{また}つくと^とあふ^{あふ}や^や南朝^{なんてう}第一^{だいいち}の
 博士^{はくし}の^の北島^{きたじま}准后^{じゆんご}親房^{おんなの}卿^{きやう}の^の宣^{のたま}ひ^ひと^とを^をの^のれ^れ白^{しろ}氣^きを^を昏^{くら}時^{とき}は^は丘陵^{きやうりやう}の
 間^まあ^あて^てその^{その}出入^{しゆり}する^{する}亦^{また}を^を見^みま^ま中^{ちゆう}の^の必^{かならず}金^{かね}あり^{あり}と^と白澤^{はくさく}圖^ず不^ふ記^きし^し又^{また}黄金^{くわんごん}の
 氣^きハ^ハ赤^{あか}し^し夜^よハ^ハ火^ひ光^{ひかり}あり^{あり}又^{また}白^{しろ}氣^きあり^{あり}と^と本^{ほん}草^{そう}あり^{あり}と^と色^{いろ}を^をとり^{とり}て^てこ^こら^らを^を令^{たま}
 の^の妖^{あや}精^{しやう}あり^{あり}浅^{せん}也^{なり}積^{つむ}と^とえ^えけ^けま^ま或^{ある}ハ^ハ白^{しろ}氣^きと^と化^かり^り或^{ある}ハ^ハ青^{あお}蛇^{へび}と^となり^り或^{ある}ハ^ハ黄^きを^を
 と^とる^ると^と事^{こと}類^{るい}賦^ふの^の載^のり^りる^る豈^{あやま}金^{かね}浅^{せん}の^のま^まは^はん^んや^や韓^{かん}幹^{かん}が^が畫^える^る馬^{うま}と^と
 鬼^{おに}を^を乗^{のり}せ^せく^くう^う走^{はし}り^り金^{かね}固^こが^が画^える^る馬^{うま}ハ^ハ夜^よ菟^う戸^この^の若^わ豆^{まめ}と^と食^たむ^む伊^い勢^{せい}國^{こく}の^の古^こ
 席^{せき}の^の繪^える^るハ^ハ夜^よ鬼^{おに}と^と乗^{のり}て^てま^まり^り雪山^{せつせん}嘉^か木^{ぼく}門^{もん}橋^{はし}の^の石^{いし}刻^き狻^{せん}兒^いハ^ハ夜^よ出^でる^る人^{ひと}と^と如^{ごと}
 け^けが^が相^あ摸^も路^ろあり^{あり}石^{いし}地^ぢ花^{はな}ハ^ハ化^かて^て旅^{りょ}客^{かく}小^{せう}欲^{よく}く^くま^まて^てり^りと^とん^んバ^バ大^{だい}乃^の衣^い尚^{しやう}古^こ書^{しよ}画^が
 の^の額^{がく}年^{ねん}と^と積^{つむ}と^とえ^えけ^けま^まその^{その}精^{しやう}鬱^{よく}く^く崇^{たか}まり^りと^とう^うら^らざ^ざれ^れバ^バ鬼^{おに}の^の為^{ため}なり^り。

必^{かならず}奪^{うば}ひ^ひ去^きら^らる^ると^と郎^{らう}瑛^{えい}ハ^ハ怖^{おそ}ら^らう^うと^とて^て過^す去^こと^と引^ひき^き未^み来^{らい}と^と終^はる^る宣^{のたま}ひ
 たる^たり^り傳^{つた}へ^へま^まけ^けバ^バま^ま由^{よし}正^{ただ}しく^く貨^{あや}物^{もの}の^の妖^{あや}怪^{かい}あり^{あり}や^やあ^あら^らん^んと^と
 び^びつ^つく^くや^やと^と毛^け骨^{ぼね}し^しと^と怖^{おそ}ら^らう^う見^みま^まと^とえ^えく^く腰^{こし}あり^{あり}疑^{あや}む^む疑^{あや}む^むて^て
 細^こ戸^この^の扇^{あふぎ}と^と密^{ひそ}と^と開^{ひら}か^か塵^{ちり}芥^{かい}落^おつ^つの^の簾^{れん}子^しより^{より}彼^{かの}首^{くび}是^{こゝろ}首^{くび}と^と瞻^{あや}仰^{あや}バ^バ
 五十^{いそ}日^{にち}掛^かの^の朧^{らう}燭^{しやく}と^と大^{だい}燭^{しやく}臺^{たい}四^し五^ご本^{ぼん}へ^へと^とげ^げゆ^ゆる^ると^とえ^えく^くと^とえ^えく^く弱^{じやく}れ^れ
 の^の和^わ風^{ふう}倍^{ばい}漢^{かん}様^{やう}なり^り或^{ある}ハ^ハ武^ぶ者^{しや}態^{たい}の^のい^いら^らめ^めげ^げあり^{あり}或^{ある}ハ^ハ美^み婦^ふ人^{にん}の^の白^{しろ}
 ち^ちろ^ろあり^{あり}高^{たか}枝^{えだ}の^の美^み衣^い被^かする^るハ^ハ秦^{しん}よ^よ入^いる^ると^とと^と呂^{りよ}不^ふ韋^{わい}と^とと^と金^{かね}の^の文^{ぶん}屋^や
 康^{かう}秀^{しゆ}が^が歌^か勝^か一^{いつ}似^にし^し薪^{きん}負^おる^る山^{さん}人^{にん}の^の花^{はな}の^の蔭^{かげ}ハ^ハ休^{やす}め^める^るハ^ハ大^{だい}伴^{ばん}黑^{くろ}主^{しゆ}が^が奇^きを^を
 派^はぶ^ぶる^ると^とと^とう^うら^ら全^{ぜん}バ^バ朱^{しゆ}買^{かい}臣^{しん}が^が統^と書^{しよ}不^ふ似^にし^し古^こ往^{わう}今^{こん}来^{らい}あり^{あり}て^て日^{にち}本^{ほん}
 唐^{たう}山^{さん}の^の大^{だい}一^{いつ}坐^ざ人^{にん}と^とと^とく^くハ^ハ人^{にん}よ^よの^の皮^{かわ}寬^{かん}鬼^きと^とと^とく^くハ^ハ寬^{かん}鬼^きよ^よの^の皮^{かわ}と^とと^とく^くハ^ハ此^{こゝろ}
 年^{ねん}と^とと^とく^くハ^ハ籠^{かご}る^る諸^{しよ}方^{ほう}の^の道^{だう}具^き質^{しつ}が^が假^{かり}ハ^ハ形^{かたち}状^{じやう}と^と頭^{あたま}と^とと^とく^くハ^ハあ^あの^のけ^けく^くが

玉藻ノ前



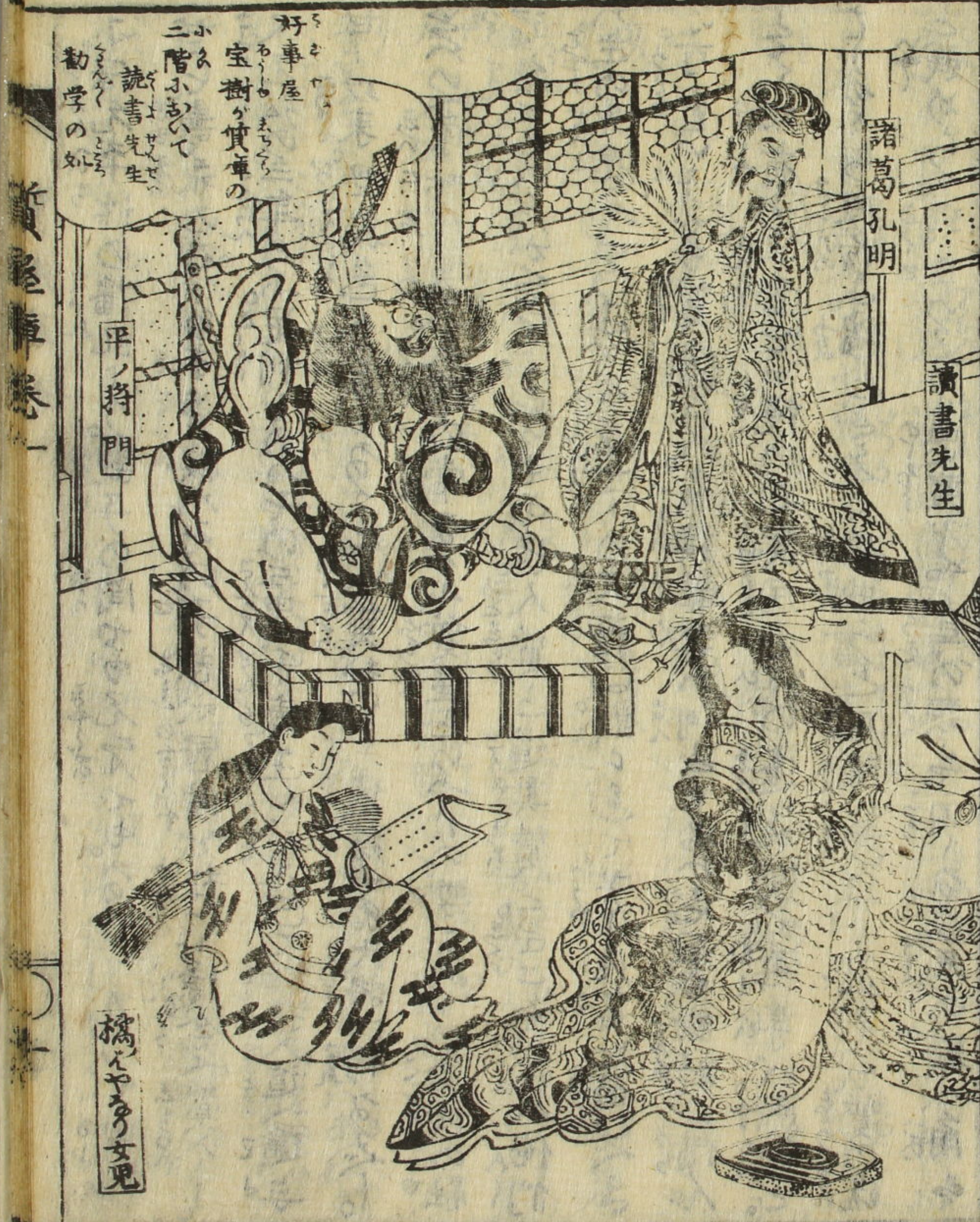
曾我五郎

大碓ノ虎

日紀ノ名虎

讀書先生

諸葛孔明



橋ノ多女鬼

平ノ将門

好事屋
宝樹ノ質庫ノ
二階小あいて
讀書先生
勸学ノ如

の関し紙入まき。動とれば茶釜を外し。茶灌とさう入各奪ハのまど。
 一帙五圓金の唐本が鼻の先へ投しめあつても方策のそ捉てまの盗賊ハ
 いと掃るなり。うやそろ。價と知りて盗むと由。珍書ハ珍書の印あれば。
 こまとさる不便あり。信の道よ今のそあらむ。信ハさる賊でもそぬ人の
 宝とさるそのの経藉史書よとめしるふ。かる宝と宝とせざるハ宝と知ぬ
 迷ひし持武夫の宝とさるの弓馬六具の武器よとさるれども文より
 暗けしハ真の弓馬とハいへまど。商賈の宝とさるのハ四方雲顧乃
 君子あり。まらざる算筆小疎けと。一冊由世ハさる思ひて武士ハ武士の
 学問あり。商賈ハ商賈の学問あり。士農工商のれくハ家業よとらつて
 よくをと修め。行ひを修むりのハ聖人の徒といふべ。故りつあなるれば武夫
 の弓馬剣法農夫の時とさるまど。耕し耘るも山妻の蚕飼とさる。

績を機織るも。番匠の規矩準繩なり。柱石とさるも。商賈乃
 算盤取て。この本錢と減さるも。まらざるハ聖人の教ひ。ことごとくはかれハ
 人間日用の所也。悉く儒の教のれハ。つとく戸ふようさるハのく。入ると
 ちとく道よとらざるハ。家来の主と教ひ子ハ親と。嚴び妻ハ夫よ。冊を明
 友よ。信と尺。長者よハ坐とめつ。少き力のとバ隣とあらつけ。嫁とる
 誓ハの式三献年賀追善のつとら。飯碗ハ左よ。春筋と右よ。採と追
 てる聖人の教ふよう。礼節の端とまらり。のから。まらハ聖人の遺徳
 と名ハ。亦是天地ハ萬物を化育とれども。萬物ハ天地の徳をまらハ親ハその
 子と養育とれども。その子ハ却又母の恩徳とまら。如く。普く徳と布
 かのから。その徳と種とせむ。とまらと名つけ。仁といふ。まらふ人も。井の
 底の蛙不ひと。大海の滔さをまら。三尺四方の井戸側よ。推當て大海

衆皆驚愕これと云ふ。古金襴の袋小袖小金覆輪の袴と穿。河金造
 つゆめさ。赤洞鮎子丸鞆の帯と締。重汚の腹巻小南虫鉄濂の刀緒
 と懸て金無垢の紳と云ふ。是の細く意気揚々。方般勢の向へねど
 名と云ふ。勇士の骨相と云ふ。給直の友切丸。五幕會談の名能也と感せぬ
 りの。の。の。けり。被社使のあまを貯で。暇もる。月貫は緋をそとた。あま
 鏡又とかりて。白ひので。れ息と。吻。世は朽と。死。正。も。あ。う。ね。こ。ん。の。往。昔。建
 久四年時。由。五。月。の。兩。夜。の。将。合。曾。我。五。郎。小。伴。と。云。二。藤。祐。経。と。誓。と。つ
 する。時。宗。秘。房。の。子。銘。の。大。刀。と。云。る。小。つ。つ。の。經。と。云。る。源。氏。の。重。宝。汚。緑。と
 呼。ぶ。又。友。切。丸。の。名。と。肩。せ。る。故。は。一。旦。紛。失。し。て。鬼。王。亦。は。苦。を。被。お。と
 り。と。も。彼。亦。と。云。う。恨。て。友。切。丸。と。云。う。索。し。ゆ。急。小。名。の。潜。謀。と。ら。急。ま。り。出。せ
 今。小。至。て。入。汚。緑。と。呼。ぶ。り。の。こ。そ。を。あ。け。ま。る。も。あ。る。ぬ。由。お。あ。て。友。切

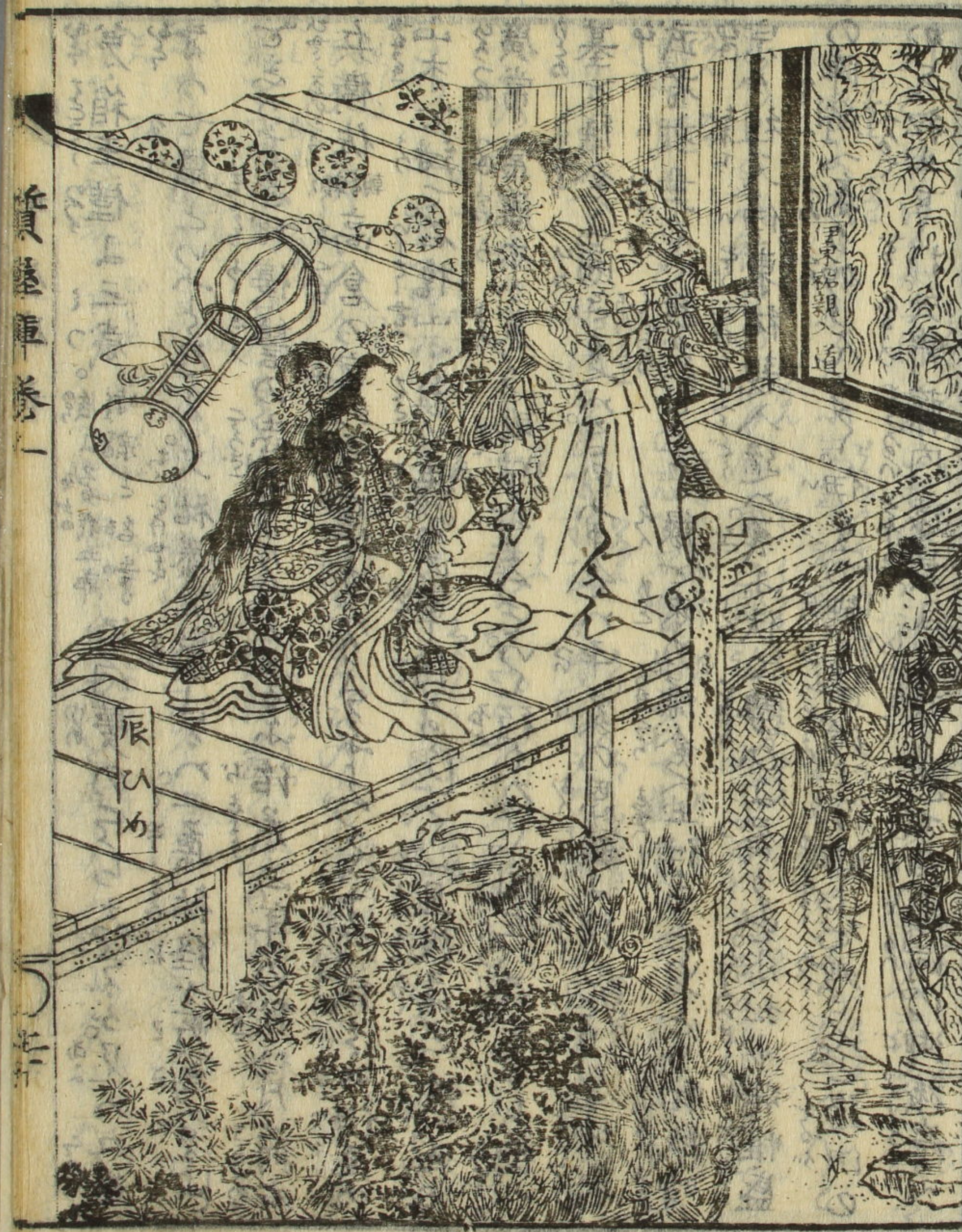
丸と稱する。と。送。恨。の。至。り。言。語。同。断。と。の。工。と。う。と。説。あ。る。と。云。は。い。い。い。
 刀。が。名。と。記。し。置。ん。お。あ。る。と。云。ひ。い。い。今。夜。の。團。坐。ハ。後。が。又。幸。ひ。
 ち。づ。つ。が。素。生。と。彈。え。し。耳。う。ま。ま。と。望。め。之。抑。五。十。六。代。の。聖。主。清。和
 天皇。と。云。西。代。左。馬。次。源。朝。臣。撰。及。多。甲。よ。在。せ。り。世。の。人。云。田。滿。仲
 と。稱。と。云。る。ふ。滿。仲。を。や。と。云。ふ。肯。あ。る。ふ。ら。て。有。一。年。筑。紫。の。假
 治。と。名。ま。し。と。二。ツ。の。大。刀。を。造。し。ゆ。今。は。件。の。假。治。ハ。名。譽。の。り。の。ゆ。ゆ。
 八。幡。宮。へ。七。日。社。系。し。を。於。願。丹。精。と。抽。つ。凡。六。十。日。あ。り。て。最。上。の。大。刀
 二。口。と。成。り。せ。り。長。廿。五。の。く。二。尺。七。寸。滿。仲。や。て。有。罪。の。り。の。と。切。せ。て
 此。れ。と。試。し。ゆ。り。ふ。一。ツ。の。大。刀。ハ。罪。人。の。鬚。を。か。て。切。け。し。ば。鬚。切。と。云。は。れ
 名。つ。け。又。一。ツ。の。大。刀。ハ。膝。を。か。て。切。け。し。ば。擦。丸。と。云。は。れ。名。つ。け。け。り。か。く。て
 滿。仲。の。嫡。男。賴。光。朝。臣。の。時。小。至。と。云。美。田。源。次。綱。有。一。夕。一。條。大。宮。へ。使

とき。彼鬚切を主し借りて帯へし。不慮小らの大刀をりて
 鬼の腕と切ちり。よりて鬚切と更め。鬼切とぞ呼らる。この
 我老病床小藤丸の大刀をりつ。山蜘蛛を破りへ正あり。よりて藤丸
 とも改名して。鬚切とぞ呼らる。さるの二口の宝刀とて満仲より
 六代の孫六條判官為義が家小侍より。有一文彼二の大刀
 鳴る。二口。鬼切が吠る。音ハ獅子の鳴小似たり。又鬼切と改て
 獅子の子とて。こを名つけ。蜘蛛切が吠る音ハ蛇の位小似たり。とて吠丸
 と改名と。さる。社小為義判官へ彼吠丸と壻り出。して。熊野別當教
 真小とて。小から宝刀と教真が牙小著。さ小あ。とて。権現へ進
 志。よりけ。小元曆の。範頼義経。濂念殿の代官とて。平家を
 西海。又討の。熊野別當。増。教真が為。より。け。

吠丸の大刀とぞり出。義行へ贈。し。義行殊より。ひて亦
 吠丸と更。汚緑と名つけ。これハ熊野の春の山の緑。とて。ひて
 出。れ。バ。汚緑の名と負。て。か。て。義行ハ。舎。兄。頼。朝。と。不。和。小。乃。ハ。
 大。切。あり。と。之。と。も。濂。念。へ。入。り。ま。さ。ど。空。く。腰。裁。り。追。久。ま。て。京。師
 へ。の。り。と。た。願。の。肯。あり。て。彼。汚。緑。の。大。刀。と。バ。箱。根。権。現。へ。奉。納。ま。さ。り
 け。と。建。久。四。年。五。月。廿。八。日。曾。我。五。郎。時。宗。又。の。仇。工。孫。祐。経。を。奪。ん
 と。と。り。し。た。箱。根。山。へ。の。り。て。別。當。行。実。又。外。ら。の。牙。の。暇。を。告。り。ハ
 行。実。も。と。り。その。気。を。猜。して。彼。汚。緑。の。大。刀。と。ぞ。り。出。り。時。宗。も
 と。と。り。し。た。の。大。刀。と。り。と。お。り。人。隨。小。仇。人。と。バ。奪。り。た。り。ん。の
 その。ら。汚。緑。と。バ。濂。念。へ。入。れ。し。る。は。太平。記。の。劔。の。巻。小。の。り。この。劔。の
 巻。と。り。の。の。舊。の。太平。記。の。首。巻。の。の。あ。り。は。古。書。の。り。の。り。の。説。

鶴とつるせき口流しなる小珠小逸物と云えしる鶴が不圖水中より
 被さあげしる。金覆輪の大刀あり。白河院殊小秘流岐と注
 鳥羽院へ傳へさせしむ。鳥羽院又崇徳院へすのりひけりて
 為系判官へ賜てり。かれが為系入道降人となりて嫡子の系親を
 憑きて牙とせしむる。彼鶴丸とも。系朝へむぐりよとせしむる。由緒
 ある大刀あり。後白河院の御護刀小石見と云ふ。東鑑は初
 りの吠丸時鳩と記し。次の條あり吠丸鶴丸と記せし不審。系朝の
 との鶴丸と時鳩と改名せし。又時鳩は源氏の重宝鬚丸の一名歟
 尋ねばかくのごく実録ふらう。その本と推し死ハ曾我五郎小伴にて。系
 祐経と誓ひし其系ハ源家の重宝友切丸あり。又系経の源流と
 改名せしといふ。吠丸あり。只時宗が仇人祐経を誓ひ科小年未

試しと剣と別し。其流の形カ。これと時宗ハ古今ヲ双の勇士あり。その夜
 比類の死働し。これハ大刀も名のき。此はあまれば。越る。と云ふ。當時の
 小説他昔が或ハ源流と云ふ。或ハ友切丸と云ふ。其ハ切名と
 空し。吠丸友切小奪丸と云ふ。これハ大刀の事と記せ。書名小劍の巻ると
 唱ふ。中葉より大刀と劍と混雜し。ひたし。小おもえし。ハ誤なり。
 和名抄は劍ハ和名と施さ。別ハ屋敷を奉て。文選の流豆流岐と注
 せん。今按じ。小属樓ハ。吳王夫差が。伍子胥へ賜る劍の名。これハ劍と
 豆流岐と和名せんもの。から。さて和訓。つら。と。つら。なるの。系。あり。
 両刃の。て。劍。とも。豆流岐。とも。い。ふ。又。和名。鈔。あり。一。也。と。ひ。と。又。大刀。
 和名。太。知。小。刀。加。太。那。と。注。し。た。ら。も。か。る。も。一。又。の。り。の。小。限。り。
 和名。太。知。と。い。ふ。ら。なる。の。系。あり。か。る。と。ハ。片。も。あ。る。の。略。小。刀。加。太。那。



辰ひめ

伊東祐親

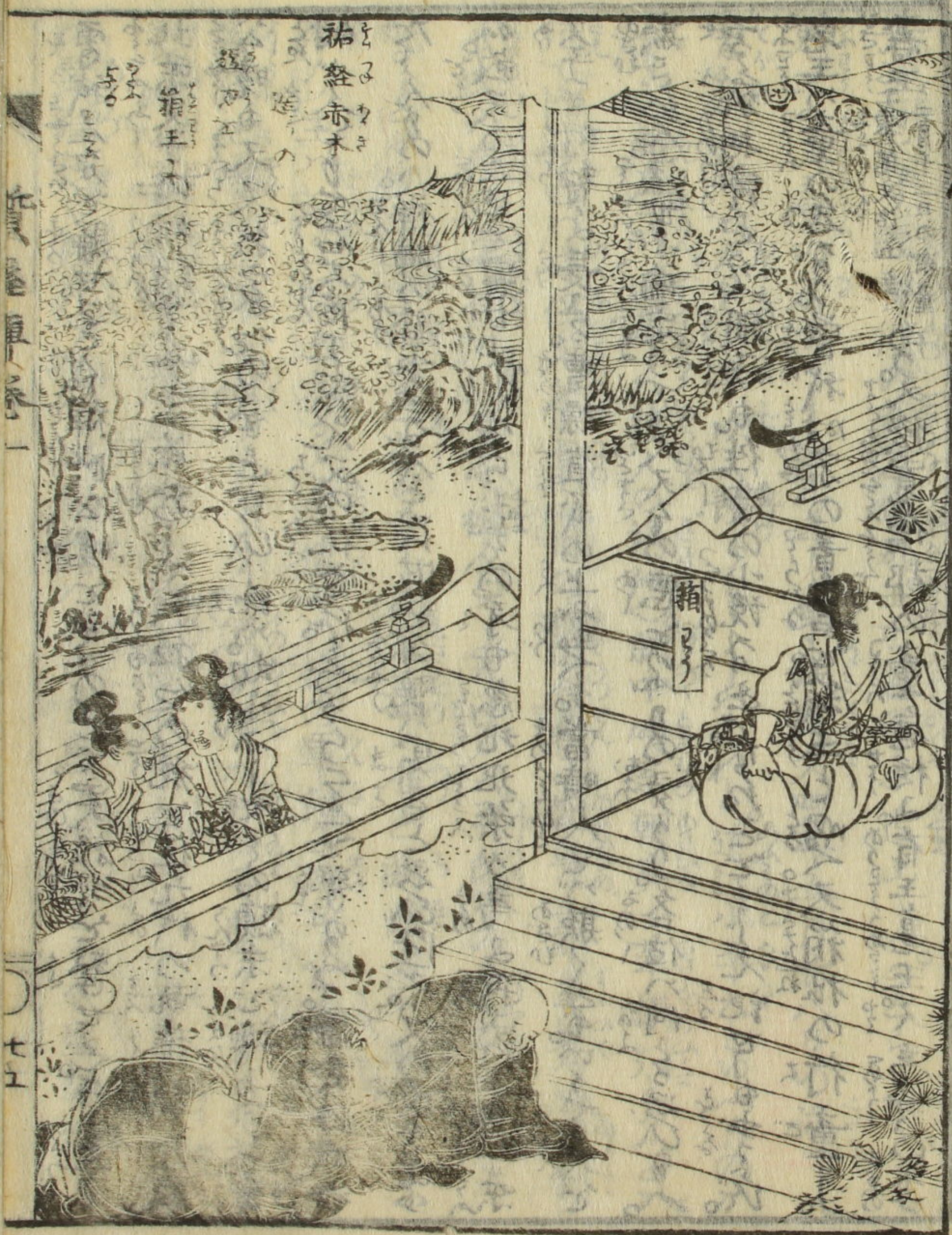


伊東祐親
女見
子と
喜人

伊東九郎祐清

祐親との某甲

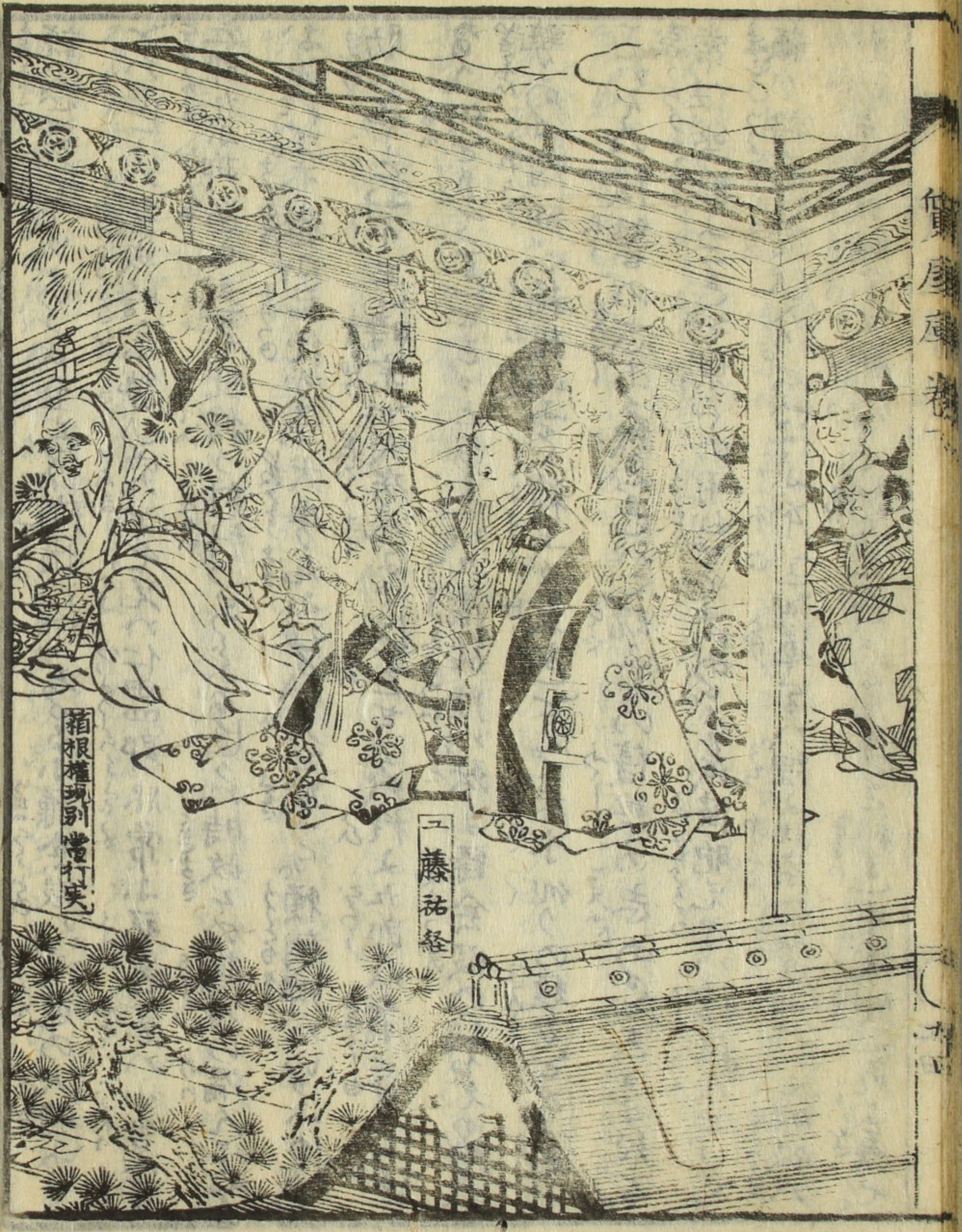
頼朝



祐經赤木
箱王

箱

十五



實成庫

箱根權別當行矣

一藤祐經

十六

曾我孫子と賺せしむ。禪師公曉とてその子にて実公と尊せしむ。曾我孫子
 北条又子の奸計すやふ成勢して執事々の統と後九代の執権時めぬ。
 公曉も又又我家々の替とひひ比の幼小しとて其の頭末と洋小せしむ。
 時公とて右大臣とて又の仇とて。つらつらとて替のつ。鎌倉の武將
 たるんめい。禪師の外はるんとて。公曉の實言とてひひと。又の仇もあつ
 ぬ。叔父の大臣と尊せしむ。その子も忽北条より為よ殺されし。北条
 又子奸智より長る。曹操直義の上ふ也。當時人をば欺くとも。いつて天を
 欺く。後世論定りて人又その悪とひひの妻より。各位の何とてひひ人。
 曾我孫子とて。冊子も往昔の小説る。とて。記す。曾我孫子。
 鬼子の童の名あり。曾我孫子の童名と箱王と唱く。又箱根の行童。
 東鑑又治五年。二月十二日の祭童。又俊寛僧都の童。彦根に有王童王。為其の子。

子と天王あり。源義経の乳名。遠那王也。名奉小違。あつて。こまをい
 鬼王も又童の名あり。とて。東鑑建久四年五月廿八日の條。
 曾我孫五郎と大見小平次と預り。つらつらとて。近江小平太といひ。の
 新左衛門。團とて。後人の誘他。就中時宗朝夷が草摺。つらつらとて。
 建保元年。夏五月の和田合戦。朝夷三郎義秀が足利
 義氏の遣の草摺とて。つらつらとて。義氏その勇力。教
 馬と拍り。と奪らせ。草摺へ井と断離。とて。朝夷が手小
 主。這とて。東鑑。その餘の軍記。記す。と撮合。とて。
 曾我孫子。曾我孫郎。小僧。とて。彼朝夷へ。和田義盛。とて。木曾
 義仲。とて。義仲の産。とて。元暦元年春正月。木曾義仲。とて。近江
 の粟津。とて。討死。とて。比。朝繪へ。和田義盛。とて。生拘。とて。義盛朝繪。と

